

一般質問

市民クラブ

長崎市の財政危機と市長の政治責任

問 長崎市のように2000億円を越す地方債残高を抱える類似都市は、中核市の中でも人口40万人を超える23市中5都市しかない。財政健全化を要する状況と考えるが、市長はこの状況を市民にどう説明するのか。

答 これまで財政の健全化に継続して取り組んだことにより平成21年度以降の財政収支は黒字で推移している。また、市の貯金に当たる財政運営のための基金残高は、平成19年度末から平成29年度末にかけて大きく改善し、借金に当たる地方債の平成29年度末現在高は、ピーク時の平成15年度と比較して減少している。

一方、まちづくりにもしっかりと取り組んでおり、将来にわたって健全な行財政運営を行うためには、これまで取り組んできた施策を着実に推進することで、自主財源の増加につなげていくことが重要と考えている。

今後、健全な財政運営を行い、市民サービスの向上と未来への投資を行っていく。

BSL-4施設計画の問題点

問 いつ、どのようなウイルスを使って、どのような実験が行われるのかという情報が公開されなくても地域との信頼関係は築けると考えているのか。

答 長崎大学が進めるBSL-4施設建設計画について、地域と信頼関係を構築するためには、住民の疑問や不安を解消するために十分な説明責任を果たすとともに、透明性を確保しながら積極的な広報に努める必要がある。情報開示については、施設の整備状況、完成後の研究状況や成果、感染の発生が疑われる事故等についても行う予定とされている。開示することで安全確保に支障を来すことになるセキュリティ等の一部の情報については、今後、厚生労働省や警察等の助言を得ながら、また、地域連絡協議会での意見も踏まえながら、詳細を決定する予定とされているが、地域の理解を得られるよう長崎大学に対し、積極的な情報開示を要請していく。

海外中学校の建設

問 平成31年4月開校予定で進められているが、工事の進捗状況と開校までのスケジュールについて伺いたい。

答 工事については、屋内運動場棟が平成30年12月中旬に完成し、校舎棟がエアコンの設置も含め平成31年1月中

旬に完成予定である。運動場等についても3月中旬に完成予定であり、供用開始に向けて順調に進捗している。

開校までのスケジュールについては、保護者や地域住民の代表者で組織する海外中学校準備委員会において、新しい校歌や校章の作成、開校記念式典の開催準備を進めており、このうち校歌については、平成30年内に完成する。

このほか、校舎完成後に備品の搬入等を行い、3月に新校舎内覧会を、6月に開校記念式典を開催予定である。

今後とも地域や保護者の協力のもと、開校に向けた準備を円滑に進めたい。



▲海外中学校の完成イメージ

幸町のサッカースタジアム構想への支援

問 スタジアムの構想については、オール長崎体制で支援すべきだと考えるがいかがか。また、ロープウェイの延伸構想について見解を伺いたい。

答 現在、市、県、事業者の3者により、月1回程度の協議・調整を行っている。長崎市としても、この事業が円滑に実施され、成果を上げることが重要と考えているため、都市計画面のほか、税制面での優遇策などに関し、事業者のニーズを的確に捉えた支援を行

うとともに、今後調整すべき課題に対し、庁内の連携・調整をより円滑にし、スピード感を持って取り組めるよう、プロジェクトチームを新たに設置し、支援体制の充実・強化を図りたい。

ロープウェイの延伸については、法的問題の有無について照会を行っており、法的に問題がないことが確認されれば、今後は幸町に限らず移転の可能性についてさらに調査を進めていく。

大規模災害への備え

問 近年、各地で多発している大規模災害に備えるため、長崎市としてどう取り組んでいるのか伺いたい。

答 長崎市においても同様の災害が発生してもおかしくない状況と認識しており、他都市の災害の対応状況について情報収集を行い、長崎市の発災に置き換えて行動計画などを見直すことは必要なことである。これまでに、机上訓練や運用訓練を実施し、その振り返りを踏まえて、業務継続計画の見直しと受援計画の策定を進めている。

市民に対しては、他都市の災害を自分の事と捉え、危機感と自分にできることへの問題意識を持ってもらうため、最新の災害事例の紹介、地域防災マップづくり、防災まち歩き、地域防災訓練などに取り組んでいる。また、自主防災組織の結成と活動の活性化についてもさらに推進していきたい。